



野守

鶴翅奇

鬼ハ昔初日ノ鏡也川乃榮 松翠
萌出ハ珠の仇名半此ハ紅 文鶴
此ハ鷹と行申之影の跡半 九重

歳暮

探題各印

屋根師

恙安此ハ一乃 孤身也配之 松翠

土器師

かゞけを賣色セリ一斗孤坂 貞織

佛師

行明一孤半際

おさめや星佛

貞六堂

法真

活くあし身そ久うこの節座交 貞織

下戸不祈り酒足法乃也 乾峰

睡月法をぬ雪孤枝依く 松翠

未と海とを是見之辰谷川 一丘

志まをを空うけ放一龜 峯川

亥ら瘧丸西孤也く 九重

待言乃け占悟一鐘乃也 文鶴

咩鳴扱う此世法也也飽く 貞次

盲人の子ハ眼の足る鬼子半く 一

町義娘ひら又書うゝ家 織

月あやこ年と延ゆる店年 九

二 孫老人の余情 和炭ころ法く 川

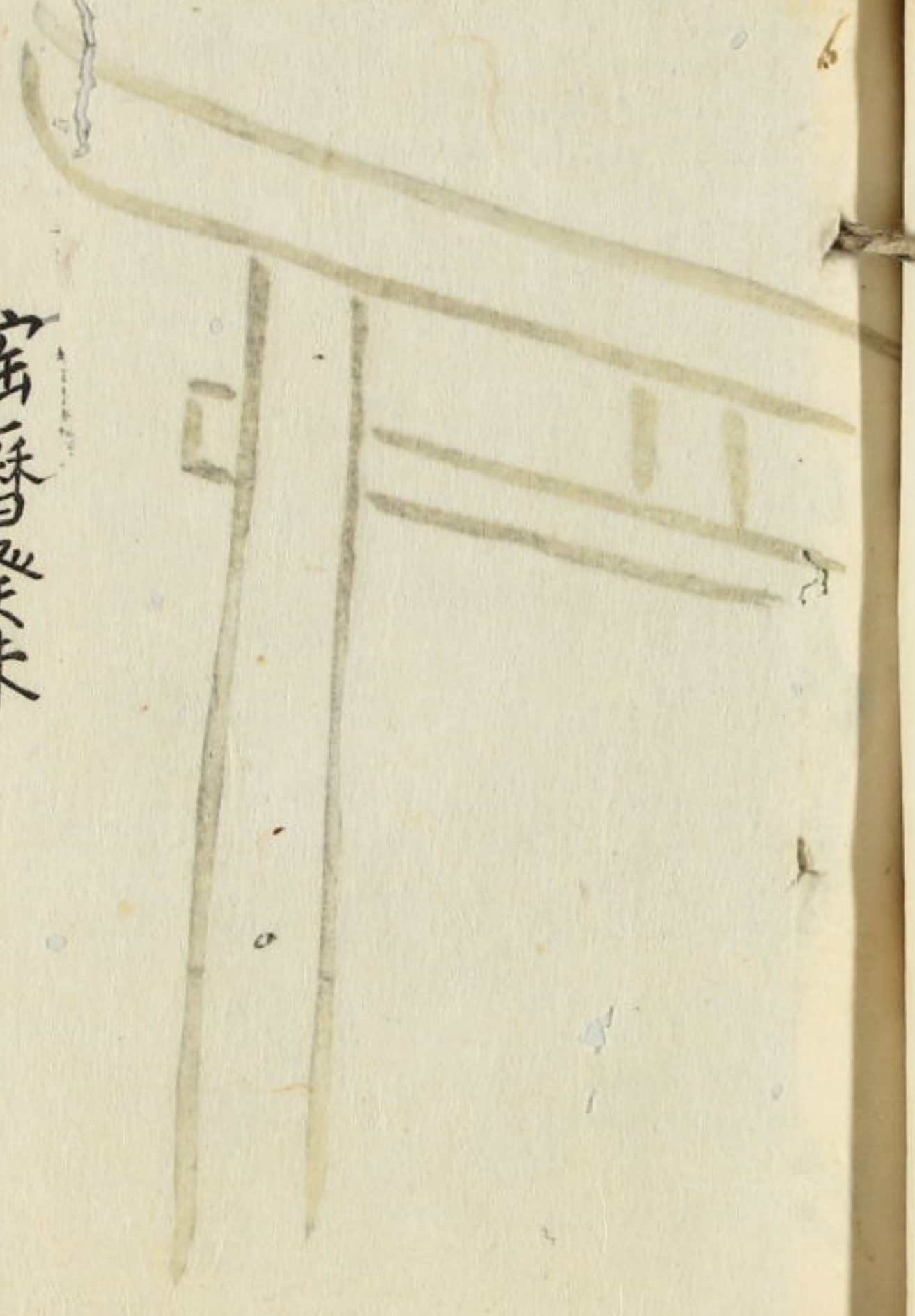
法而を茶半書る 誅白髪 乾

二



一寸の松は成すに口説き
 成すに留まらずに成すに成すに
 口傳ふもいとほしき言はれ
 皆色く生きたるは七唐人織
 蓋て文より降るは雪方松香文
 月の星あつてさるるまゝの川
 押はる鳥の四五羽死んば一
 自勝しそよふと高字の文遠山松
 笑へいふもいかに成島山次
 酒を松香の友なる煙草入乾
 宝成るもいとほしき楮棠九
 年内立春

水やまあると莫葉は
 貞六堂
 大いかに松葉



寅曆癸未
 歳首賀

コトら成神の社造造営
 かくかく教多う材木山匠
 黙りし有るはあつて
 かくかく神代を祈る

松檜のや
 和光の鏡餅
 梅筑堂
 峯川

龜もかゝりて掛網全
 赤松雲白鳥かゝりて
 一の松葉やう年全

年内古妻の吟
吟く神吟を俣波

五木の子を名道く林松坐 峰川

陸子あふれを年乃雪

吸うふ詩の平乃たあふ

流まはるるく流人玉

土の障障の土ま古月此屋

鹿と座敷へ強人煉

下署

除夕

思くよか一箇

十本餅此坐 全

全

推敲
身梨山此坐 貞六堂



宝曆十三

癸未乃

東君

峯花亭

九重

初宮のきりぎりす

峯花亭中金花山

除夕

全

今片のふきとる

年の矢に根銀治

立去在獵

貞六堂

水や春あつ

賞葉炎
大いしに紫

宝曆十三癸未年

湖東平流

岸々奇

詔光

あつ事

あつ玉

并戸の深み

柳風

年抄

全

行中や魯陽

戈くあ糸く

貞六堂年抄のく扁典
長句去短句作

柿柳交むむ。乃栲色。柳風

古の日の尺も十尋あふ乳 乾

去まき又東死乃脂凍く 九重

去まき年報の老きかり 柳

月の星琴ふさふさ 乾

蔓草や年去り菊子 九

工
世の例も門乃千代見州 梅香

工
朝寐好もと初鳥 田也笑

工
年 梢 貞次

工
何のそれ交り常きと斗も草 愚笑

工
曇りぬ所も月の子 梅香

工
美人の取見 朝三

工
年もや 貞次

工
申く年のおと 貞次

工
赤い君子も 貞次

工
君の代や 貞次

工
何人の物 貞次

工
己の心を 貞次

工
御代の風俗を 貞次

工
此の心 貞次

工
元日や 貞次

梅香

田也笑

貞次

愚笑

梅香

朝三

貞次

貞次

貞次

貞次

貞次

貞次

貞次

貞次

貞次

貞次

貞次

癸未

青帝

丹羽立原連中

鳥都軒

何人の物 貞次

己の心を 貞次

御代の風俗を 貞次

工

此の心 貞次

元日や 貞次

工

ハ重う 貞次

多踏人 貞次

工

多踏人 貞次

野花

欲乃ち先の多し福多し
一霞山を竹雀人埋むる人

全

目録一。小福の自の中はたす先 和山
世界とあり久業固り。朝台
伸ひかゝる。きりきり。揺振一。全

除夕

世り。天風の中の中。煉拂 和仙
羽立り。作進皆。抄ひきり。除夜。昆蟲。音羽
きり。身の基。あか。平。境 藍玉
既銀とて。越。い。年乃。坂。如泉
十三里。一。孤。泣。り。きり。梅玉

玄妻在輝

鸞鳳ハ卵ヲ産ヤ。殷代ノ春 藍玉

玄唐

玄未了

初陽



湘東野河

初日南射。午。う。之。比。考。越。天。樂。初月
音。其。報。草。乃。所。長。あ。く。全

守集

留廿年。公。た。か。ま。り。よ

孤袖



癸未

詔光

山刈横大路

自口舎

一聲

唐士も六の

日此年正月初一日

其真

立やいふ曾此

あるや初履

采夕

たまふや今宵也

斗の孫目酒

子加

竹葉の公根向之目鏡賣 貞堂

癸未

歳壽

丹羽笹山

以尚軒

古賀 誕生乃

君を祈り せうと

千代まゆ世継ハゆふの今報 如共

むへも半江七路余所小かち采 全

むち里こ不除まぬ 志子以極之身 全

全

江北中河舟

松柏亭

あゝ小咲大い孫の子あやふ日影 後彫

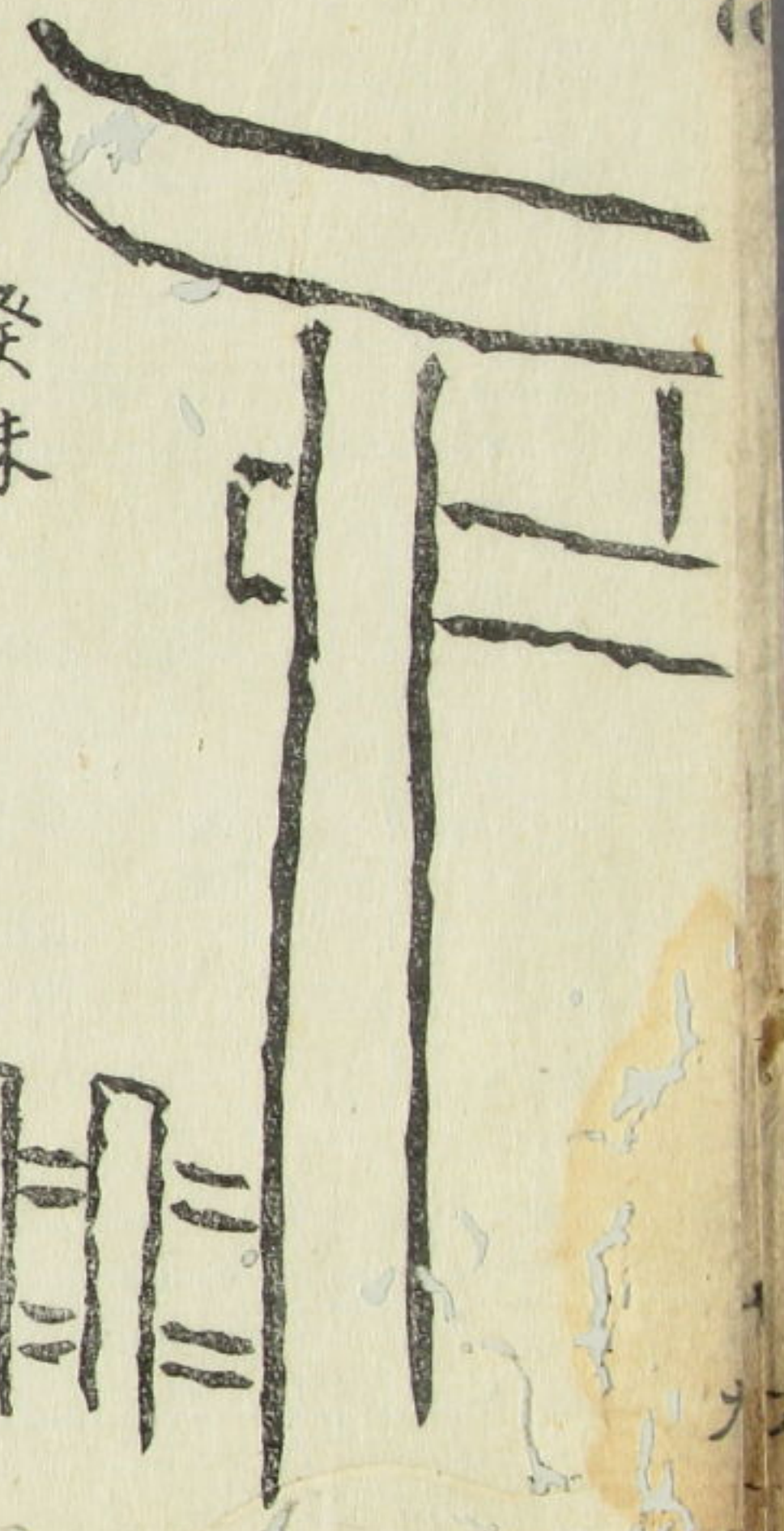
毒も恵方へさへと百枝 全

押親乃附子あふむ芭ぬゆ 乾峰

守載

詭搗やれまふくや年 後彫

了高士身んとまふやゆ人言 孫人し如共



癸未

正朔

天海寺の社

多し居宅を

定め作り

丹波馬路

風荷軒

完尔之初也昔より本母隣止角

任在務より一歩道菜全

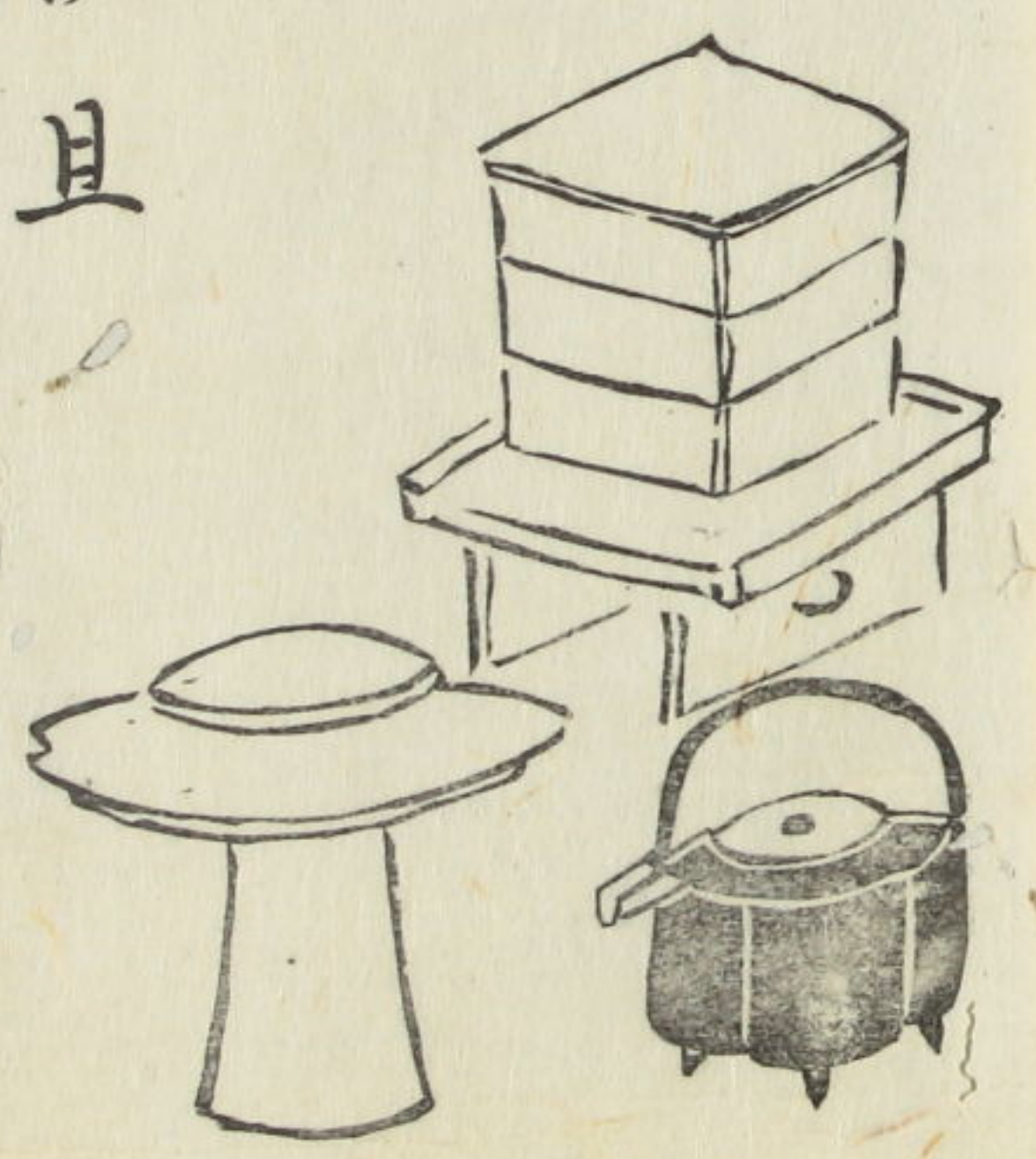
弥生山鳳も秘曲もみは人乾峰

年抄

尾も七尺行中果昔此者能止角

冬之吟

陽ノ愛テ鶯ノ雛一啼乾峰



癸未

載且

丹波馬路連中

襟花亭

思齋

改らねの
我月や辰蘇の言

三十一日
表とむら

雲湖亭

吐月

歌乃文字拵
思く玉張

一帆亭

馳舟

美代の風味
大いなる歴蘇の言

一斗のね
所や東の方棚

風紅堂
柳牙

歳末

馬もさや未年
智山一孤末
柳牙

師走馬
来り何返次第
馳舟

山崎く
年暮ぬ
吐月

二年もさや
尾形く
思齊

常より
一孤矢剥橋
貞六堂

癸未
正月

西内村
松香菴

初雪
三朝
水

挑林
梅枝

全
湯東延寺
蘆白庵

萬像
月耕

全
丹西文山

玉の世の
難
全

本
全

全
同八田

惣領
扇計

煤
掃

徳
諫難

年内古書

家造の勢山出早也一此春 月耕

其 真

出東平流

平野志平信也日人妻出也 押風

流 算

醉醒や正気也。陸夜了鬼 扇計

去来建く砂おたよ一此一孤雪 諫雞

透垣千梅の母もく斗を統也 月耕

長定の如き也 此一乃大福帳 梅枝

此之由也其乃目之人の化縁多 廿

う紅志門と流り得る也中平此川 三朝

冬 孤吟

佐保姫の前歌也 昔也 貞六堂

雪を乞ふ



癸未

覆新慶

柳鳥連中

完示や笑ふ中四方此之山 貴柳

真駒や曾人々福人二日 立花香

捨甲山乃大將注連此内 寄定

彩玉中主此光公美衣始 千一

家も人古もふり子此初日之柳 一思

月も日も頭よりきりかいら芋 綾雄
蓬萊の葉を礼者へ番ねり 和風

心子草

餅あやあや 蒼少く香は持て候 和風

年飯中又云ふ越前花より坂 綾雄

餅花の押老と曾のあはれなり 一匙

豆乃教はあやあや 千一

門堂もあやあや 此宿 寄定

山歩のあやあや 合人師走哉 花香

牛房を能く新きり 斗此言 貴榊

雪自注

雅子 雪布袋 貞六堂

癸未

載 且 初孫 丹島笹山 一代堂

蓬萊小竹不足あり 表 龜遊

親く堅固 孫の破磨 子 全

雷除り桑も蠶繭り 摘あはれ 乾峰

全 六十の 江島日友 布袋菴

卿杖法いづ 昔もあ 明乃表 文廓

浜花も能く 全

あやあや 全

全 同音根 蛭子堂

神 神 川 柳

全 全

常 丹島亀山

全 釋 里花

抱き抱き 里花

東家

後朝の意とは多し九月三十日 里花

玉堂の意は多し 此後中室 柳

一めは此後子もありや 年日多し 又

報きては 此後越と午乃言 龜遊

五妻並傳

此後津小入舟志多あり 甚 文廓

甚 奥

其は物事の多し 春此雨 川柳

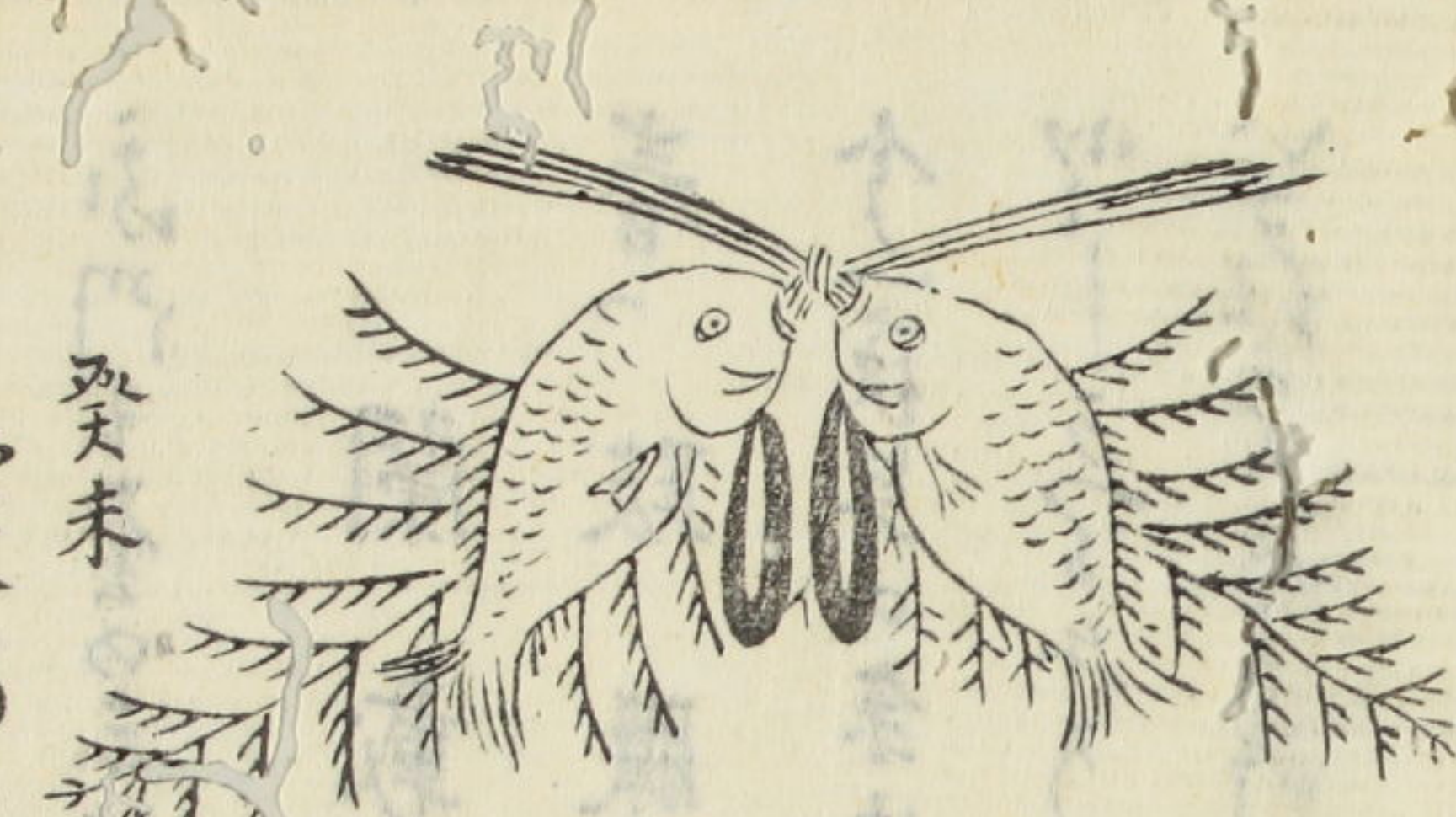
年内五妻

洛水の任居し 中や此言 柳風

朋友乃此後

耳順の意は多し 此後北尾氏

百の世は此後多し 友蓮 貞六堂



癸未

西獲端慶

濃交連中

後世の意は多し 此後 飾堂乃木 助盛

此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後

元朝の意は多し 此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後

此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後 此後

嘆 初中第小教より福来也 綾里

出る日ハ矢あめ月孤子 始 羅月

空舞てても舞 舞々注連飾 柳石

動物の種とソウチ 初日出 憚志

二徳のめつみと得る 明乃此 盛

家門も妻の志 十代の去 近卜

蘭載

春 跋 臘 梅 脚 雨滴

今一夜年の余浪や鶏乃 壺 近卜

以 一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 附盛

いさよ 乃 乃 乃 乃 乃 乃 憚志

節分 乃 乃 乃 乃 乃 乃 柳石

翌 乃 乃 乃 乃 乃 乃 忘 羅月

亥の座と 乃 乃 乃 乃 乃 乃 綾里

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 嘆之

節分 乃 乃 乃 乃 乃 乃 盛

大道 乃 乃 乃 乃 乃 乃 都翠

大小之吟

澄む 乃 乃 乃 乃 乃 乃 助盛

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃

南天 乃 乃 乃 乃 乃 乃 貞六堂

憎 乃 乃 乃 乃 乃 乃

年抄

而笑翁

多於まゝの年の尾上に呼子鳥を練石

あつたやの徳をぬきけ中事始也並普永

よの徳を徳を人未く去山のの辰也西三堂

共系もある人ある花を不た事也吉也口

東 君也但品出石也一方代堂也一朝

京便に口を忘す全

聖王節也居初代幼年也扇峰

守 宗也煉石を又よくく描り足す全

癸未 普 帝也江初八幡也折園堂也

門松をある玉垣を神乃國也松玉也

書をある玉垣を神乃國也松玉也

系抄の徳をある玉垣を神乃國也松玉也

全 同所也松園堂也

國民を按りめる初日の里水也

代の徳をある玉垣を神乃國也松玉也

二朝の徳をある玉垣を神乃國也松玉也

全 探題宮守也

事觸しまる人の白くくく張り全

橋守也松玉也

歳暮也題鑄物師也

新の徳をある玉垣を神乃國也松玉也

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

放下師

柱のあらしは身や見えぬ年の尻里水

立基並稱

階納もは法をうくくりにし法去 木玉

去 奥

外におもひあきれ指やまをり機 一本

二十歳の基はくちや

三十歳の基は機りし老中も春 全

詔 光

同八幡土田

何一ツ不足敷ありし山乃明 梅丈

神代乃まると今もまきまき 全

機あやまのまきし法喜候く 全

除 夕

山よりまよも物し一年忘 全

癸未

蒼 天

湖東山崎

照り増や太平木のま山日に出 一竹大

兔子堂

全

同 平流

光り届くまのちり老やまの朝 柳枝

代々千芳一まきまき 山 全

まのまきまきとまきまきやうけ 全

全

同 田原

神あはまのちり老やまの朝 金水

白澄軒

ほろり飾りたためし法日 全

昔柳のまも四方へまきまき 全

全

同 所

午の法末かきりやまの朝 伊香

子めり皺もつひや那まき 全

まのまきまきと小標も衣履く 全

全

同 普光寺

水千流の初日 花朝

自然と味のたま 全

母も山も柳も 全

全

同川並 一瓢堂

神も実古れ光り 全

本母乃 全

舞雲雀霞の幕ふ 全

全

同所 鶴遊軒

万代の玉乃か 全

水乃間より 全

鳥を笛鼓ハ草 全

全

同平流

聖人の氣も 全

全

同所

悉欲乃水も 全

立去其輝

見ぬま 全

全

早孤字の毒 全

全

みそ 全

十名 真

日城 全

天栄花招

守 載

二十 全

一 全

古比急の隆夜より早くまじし 松水
 待をまじ有りし 小年の金徳が 樂水
 百姓もよみ世に一年は昔 一々
 行くも清紅あふみの川 研枝
 州ぬら紅紅あふみの川 忘 金水
 かまはともぬいあふみの川 伊香
 聖賢の國やまらるる 蝶拂 花朝
 一二 始
 蒼宦舎
 門去かりし父母乃 汝等う那 百秀

年 箱

佐々木何後世と後を以て此川 全

昔より可し一人の事とては
 昔田法神の筆の跡とては
 此の事とては

賢が故に銀も得るも
 貞六堂



癸未 正月初 三株連中

重代のおわりも並居家も此春 錦流
夏河梅 桃實子

巖よりまろ此未も此日哉 夕嵐
雲亭

事なりと此大福や此祝 苔石
新潟野

あう里場やきりき活衣の紅ははめ 翁子
春葉野

瓜をまききりき初日う那 花蝶
盃流舎

書得るも此一此頭日の可し 桃醉
相静庵
 民不明此も此中此此日哉 晴技

誰有之鼓人ありては是 知足

立其其端

ありては是ハ多きり梅は笑 知足

其下之吟 その字小

いそいそとれもそをむかひ見や 豊之

年内と其

駒とありては是なり人なり 此は也

三 始

廿秋笛舟

元日や月をぬれ自陸を氣 八鹿

全 廿五支の事をいふ

知賤舟

亦人もきりては是なり先 行貫

臘 一底

賣初は八百五十の事 始 行貫

九年何年の尻目にはいふ 八鹿